

6月に入りました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。熊本労災病院のHPを訪れていただき、ありがとうございます。

COVID-19の蔓延状態が落ち着き、緊急事態宣言も解除になりました。東京など一部では、夜の繁華街を含む感染の持続を懸念していますが、熊本では、知事が歓送迎会などで飲食を推奨するなど、経済回復にむけた動きも出てきました。熊本労災病院でも、患者さんやご家族のご協力が続けてきた面会禁止措置を解除し、一時中止されていた耳鼻科の手術なども再開され、できるだけ、以前に戻った診療体制を構築しようとしています。もちろん、手放して何も懸念なく感染流行前と同様に振る舞っていいわけではなく、入院外来での感染を思わせる症状のチェックや、受付などでの透明遮蔽板の設置、発熱など感染が疑われる救急症例などでの个人防护具の完全装着など、今後、ウイルスの存在と共存して地域の医療活動を行うための処置は継続いたします。職員も、外での飲食をずっと控えてきました。医療従事者として、間違っても病院にウイルスを自らから持ち込むわけにはいかない、という自覚は、人一倍強いものです。しかし、「自粛」そのものが目的ではなく、感染防止が目的である事を再度思い起こし、そろそろ「自覚を持ちつつ」、八代経済の回復のためにも、コミュニケーションの場を院外にも広げる方向に舵を取る時期かと思えます。リモート機能の浸透で、名刺交換や印鑑不要論も出ています。決裁につきものの印鑑ですが、メールなどで情報を共有し、各層の担当者がそれぞれ見合った責任を取る自覚さえあれば、決裁で書類が回ることは無用なのかもしれません。決裁の削減で大量の時間が生まれるともいわれていますので、より建設的な施策に向けられればと思います。ちなみに、今年の初期臨床研修医の修了記念に、各自に印鑑を作って贈りました。今後無駄にならないことを祈るばかりですが、医師であれば処方箋に押すことが多いほか、自分の本や手紙に押したり、と記名がわりの用途もあり、自由な使い方を考えてもらえればと祈っています。

すでに報道であるように、COVID-19感染蔓延の影響で、各医療機関は、感染対策による支出増と患者さんたちの受診手控えや手術減少による収入減で、相当厳しい経営環境におかれています。この間の休業要請に応じてきた多くの社会の方々と痛みを分かち合うべきだろうと思いますが、経済的な痛手で感染対応の最後の砦がその防壁すら崩れかけたら今後の闘いができません。最大限の自助努力をしつつ、労災病院が所属する法人や行政機関の支援を期待したいと思います。6月からは、熊本大学血液膠原病内科の御高配にて、隔週ですが、リウマチ・膠原病の専門外来が開設されました。ウイルスに注意しつつ、このように診療機能の向上に不断の努力を続けたいと思います。

入梅となり、熱中症のかたも救急外来に来られるようになりました。お気を付けてください。熊本労災病院は、どのような環境でも最良の医療をお届けできるように努めます。これからも叱咤激励のほど、よろしく願いいたします。